

心臓血管病の一次予防には集団的スクリーニングが最も効果的

英国の心臓血管病の一次予防を目的としたスクリーニング・プログラムにおいて、普遍的スクリーニングと代替実行可能な戦略について比較した。

現状に近い 5 種の集団に対し、心臓血管病スクリーニングのマイクロシミュレーションを実行し、一次予防の効果と社会経済的な不公平性を検証した。5 種の集団として(1)ベースライン群：現状の心臓血管病リスクが当面継続されると仮定する群、(2)普遍的スクリーニング群、(3)集中的スクリーニング群：心臓血管病リスクが最も高いと考えられる最も貧困な地域に対して実施する群、(4)構造的母集団全体スクリーニング群：不健康な食事をしている人や喫煙者などに絞って実施する群、(5)構造的母集団全体+集中的スクリーニング群：構造的母集団のうち、集中スクリーニングで規定したハイリスク集団に絞って実施する群を設定した。2030 年までに予防可能な心臓血管病患者数と心臓血管死を検証した結果、ベースライン群と比較して予防可能な心臓血管病患者や心臓血管死の数が最も多かったのは、構造的母集団+集中的スクリーニング群で、予防可能な心臓血管病は 82,000 例、予防可能な心臓血管病死は 9,000 例であった。次いで構造的母集団全体スクリーニング群、普遍的スクリーニング群、集中的スクリーニング群となった。

したがって、心臓血管病一次予防のためのスクリーニングは、不健康な食生活をしている人や喫煙者の集団に絞り、さらに最も心臓血管病リスクが高いとされる貧困層にのみ実施することにより、心臓血管病の発症や心臓血管死の予防効果が最も高くなることが示唆された。

出典：British Medical Journal(Clinical research ed.). 2016; 353: i2793